

「メディアやデバイスが変わってもソフト作りの本質は変わらない」

◆研究概要（実務実績）等

在阪民放局（毎日放送）で 35 年間、TV・ラジオの制作を中心に、編成・宣伝など多岐にわたって経験を積みました。

テレビでは情報番組・バラエティ・ワイドショーなどの制作に携わり、ラジオでは若手からベテランまで様々なパーソナリティーと出会い、番組作りを行ってきました。

昭和から平成にかけて、そしてさらに新しい時代に向けて、放送や番組を取り巻く環境やその形は進化を続けています。

そうした進化の中に身を置き、変わらなければならないものと、変わってはいけないものを実感しながら、番組作りを行ってきました。

テレビのデジタル化に伴う進化やラジオの栄枯盛衰、そしてWEBと放送メディアの関係。

現場での様々な経験を元に、これからのメディアについて、それを担っていく学生たちと考え、制作者としての基礎を育成していきます。

◆研究テーマ・授業目標等

①番組ソフトの分析・制作

テレビ番組にはテレビの歴史とともに培われた様々な要素が詰まっています。

情報であれ、感情であれ、一瞬にして無数の人たちに向かってそれらを届ける力は、今でも最強と断言していいでしょう。

メディアとして、ソフトとして、蓄積された多くの財産について学びながら、これからの時代を映し出し、リードする番組作りについて考えていきます。

社会マスメディア系専攻
教授

すぎうらとおる
杉浦 徹

sugiura@socio.kindai.ac.jp



②これからのメディア

ネット動画の時代はまだ始まったばかりです。技術の進歩、それに伴うソフトやメディアの進化は、予想できないことばかりでしょう。

しかしある日突然、全てが変わってしまうということはありません。

進化はみな、それまでの蓄積を元に行われていきます。

放送が担ってきたメディアでの役割は、どんな形で進化していくのか。それを担うのは誰か。

時代の変化の中で、変わるものと変わらないものを冷静に判断し、メディアのこれからを考えます。

③番組制作者としての人間力の育成

放送であれ、ネットであれ、番組を作る人間に求められるものの本質は変わりません。

知識・常識・コミュニケーション力・企画力・判断力・行動力・情熱・冷静さ…。

どれも特別なものではなく、人として身につけたい人間力です。

どんな世界でも求められるものですが、とりわけ世の中に対する影響力の強いメディアの世界では、欠かすことができません。

放送を学ぶことを通して、それらの力を持つ若者を育成します。

◆作品等（主な担当番組）

・テレビ番組

「ちちんぷいぷい」「せやねん!」「新たかじんが来るぞ!」「むちのち」（プロデューサー）

「サタデープラス」「メッセンジャーの〇〇は大丈夫なのか?」（アドバイザー）

「板東英二のわがままミッドナイト」「テレビのツボ」「スマっこ天国」（ディレクター）

・ラジオ番組

「MBS ヤングタウン」（プロデューサー）

「ありがとう浜村淳です」（ディレクター）

NHK民放連共同ラジオキャンペーン in 大阪「ラジオにタッチ」実務者会代表

◆趣味等

高校時代から40年間、映画館に行くことが生活の一部になっています。

学生時代も会社員時代も教員になっても、授業や仕事を終えてスクリーンに向かう時間は変わらない（成長しない!?）自分を感じます。

また長年、演劇やライブなどにも足を運び続けるエンタメ好きオヤジです。

ゴルフは「スコアは二の次、プレイできるだけで幸せ」を信条に楽しんでいます。

◆ゼミについて

まずは様々なテレビ番組を見て、自分の中に多くのものを蓄積すること。

次にそれらについて考え、分析すること。

そして自ら企画して制作すること。

番組作りに対して強い思いを持つ者どうしで意見を戦わせあいながら、制作者としての力を養っていきます。

また放送人・社会人としての実力を養うために日常生活の中での生き方や情報との向き合い方の指導も行っていきます。